

電気通信事業法施行規則の一部改正について

－ 初期契約解除に伴う対価請求項目の追加について －

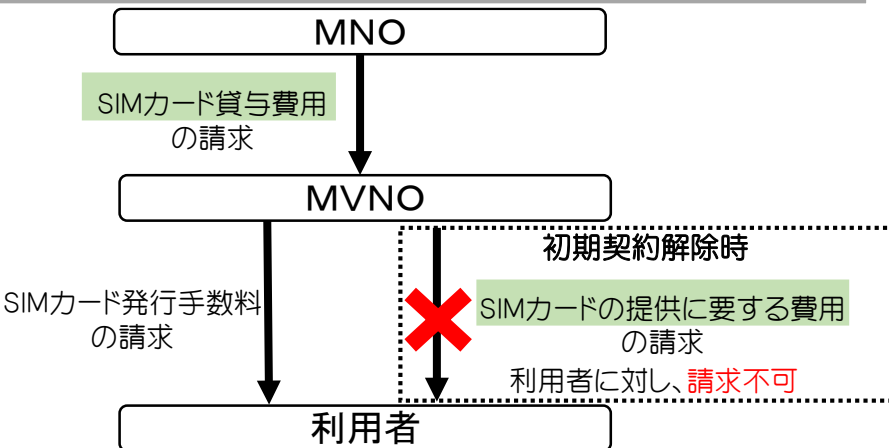
総務省
総合通信基盤局
消費者行政第一課

改正の概要

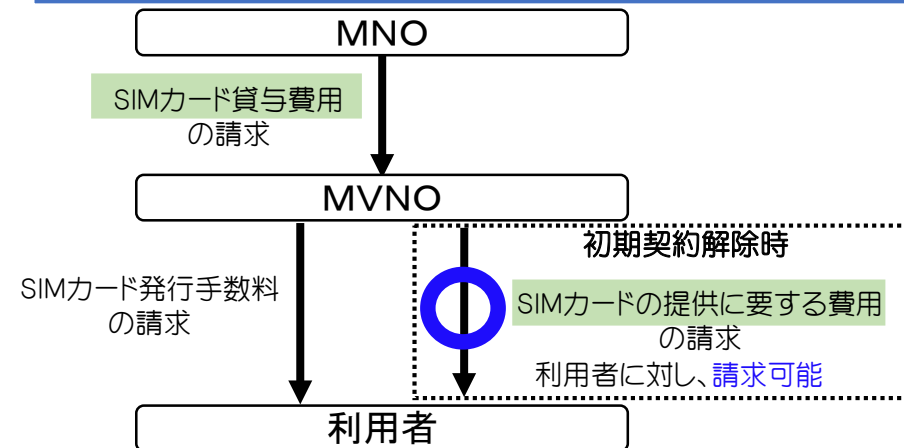
- MNO各社が、2016年度後半以降、SIMカードの貸与^(※)に係る費用について、SIMカード1枚当たりの単価に基づき請求する運用を開始したことを受け、主なMVNO各社では、順次、MNOからのSIMカード貸与費用の請求を踏まえ各社において設定した金額を「SIMカード発行手数料」として利用者に対し請求する運用を開始。
 - ※ 接続料の記載に基づき、SIMカードの「貸与」としているが、一度発行したSIMカードは、再度別の利用者に提供することができないため、MVNO事業者がMNOに対しSIMカードを返却しても「貸与」に係る費用は返還されない。
- 2018年10月にMVNOの音声通話付サービスが初期契約解除の対象役務として追加された後、2019年2月の「消費者保護ルール実施状況のモニタリング定期会合(第6回)」において、業界団体より、初期契約解除の際にMVNOが負担している「SIMカード発行手数料」を対価請求の項目に追加してほしいとの要望が示され、同会合における要改善・検討事項として、「SIMカード発行手数料」の取扱いについて総務省等において検討することが必要である旨が取りまとめられた。
- これを踏まえ、「SIMカード発行手数料」のうち、①MVNOが利用者への役務提供のために必ず要する費用であり、②接続料の一部として省令の基準に基づき算定され透明性・適正性が確保されているSIMカード貸与費用に相当するものと認められる金額については、「SIMカードの提供に要する費用」として初期契約解除に伴う対価請求の項目に追加することとし、所要の規定整備を行う。

※ 確認措置(総務大臣の認定を受けた役務について、電気通信事業者に一定の責任がある場合に端末等も含めて契約解除することができるとする初期契約解除の代替的制度)により契約解除した場合は、契約事務手数料、工事費用、番号ポータビリティに係る費用は請求できないこととなっているため、SIMカードの提供に要する費用についても同様とする。

< 現行 >



< 改正案 >

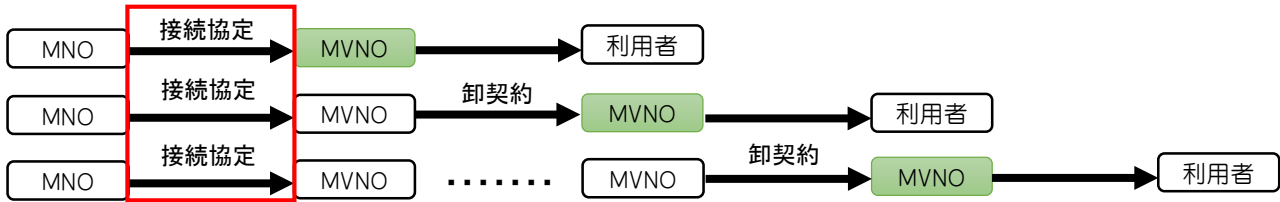


：接続料の一部として省令の基準に基づき算定される費用又はそれに相当するもの

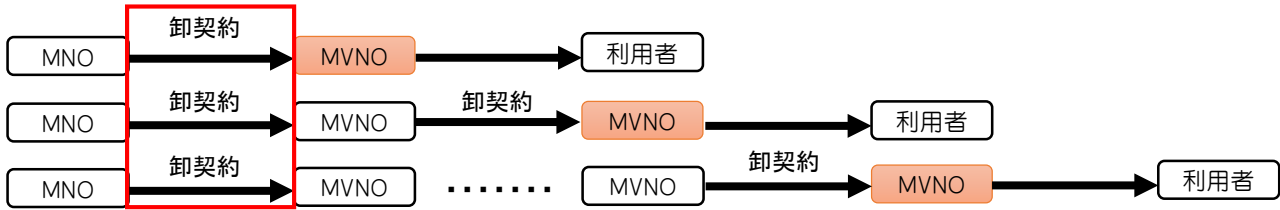
電気通信事業法施行規則の一部改正

初期契約解除に伴い利用者が支払うべき金額（事業者が利用者に対して請求可能な金額〔上限額〕）として、以下を加える。
（第22条の2の9）

- 書面解除に係る電気通信役務が仮想移動電気通信サービスであって、当該電気通信役務を提供する電気通信事業者が次に掲げるものである場合にあつては、それぞれ次に定める額に相当する額（当該電気通信役務の提供に用いるSIMカードの提供に要する費用の額として当該電気通信役務の利用者に対し通常請求される費用の額を超える場合にあつては、当該通常請求される費用の額をいう。（※1）
 - ・ 当該電気通信役務を提供する電気通信事業者が**第二種指定電気通信設備に電気通信設備を接続する電気通信事業者**（当該電気通信事業者から当該第二種指定電気通信設備を用いる卸電気通信役務の提供（二以上の段階にわたる当該卸電気通信役務の提供を含む。）を受ける電気通信事業者を含む。）である場合には、**SIMカードの提供に係る接続料**（※2）



- ・ 当該電気通信役務を提供する電気通信事業者が**第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者から当該第二種指定電気通信設備を用いる卸電気通信役務の提供を受ける電気通信事業者**（当該電気通信事業者から当該卸電気通信役務の提供（二以上の段階にわたる当該卸電気通信役務の提供を含む。）を受ける電気通信事業者を含む。）である場合には、当該第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者から提供される**卸電気通信役務に係るSIMカードの料金**



（※1）MVNOが通常の契約手続時に、SIM発行手数料として、接続協定又は卸契約に係るSIM貸与費用を下回る金額を設定していた場合等には、当該額を対価請求の上限額とすることとする。

（※2）実際にMVNOに負担の発生する費用についてのみ利用者に対し請求できるよう、「第二種指定電気通信設備接続料規則第4条第2項第3号に規定する部分に係る接続料に相当する額」とし、接続料の変動に柔軟に対応できるよう規定することとする。

■ 施行日：利用者利益の保護の強化等を内容とする「電気通信事業法の一部を改正する法律」（令和元年法律第5号）の施行の日から施行することとする。

改正の背景①

(1) MVNOにおけるSIMカード発行手数料の請求開始

- **MNO各社は接続約款を改定し、2016年度後半以降、MVNOに対し、SIMカードの貸与に係る費用について、SIMカード1枚当たりの単価に基づき請求する運用を開始。卸契約についても、接続約款の改定を踏まえ同様に変更され、主なMVNO各社では、新規契約者等の新たにSIMカードを必要とする利用者に対し、SIMカード1枚ごとに、MNOからのSIMカード貸与費用の請求を踏まえ各社において設定した金額を「SIMカード発行手数料」(※1)として請求する運用を開始。**
- **総務省では、2017年9月に第二種指定電気通信設備に係る接続料の透明性・適正性等の確保、公正競争環境の向上の観点から、電気通信事業法施行規則及び第二種指定電気通信設備接続料規則を改正し、MNO各社のSIMカード貸与費用について、接続約款記載事項等に追加し、また、当該費用の算定方法についても規定(※2)。これを受け、MNO各社は2018年4月より、省令の基準に従った費用算定に基づくSIMカード貸与費用の請求等を実施(※3)。**

※1 当該費用の呼称は社によって異なり、他に「SIMカード発行料」、「SIMカード準備料」、「SIMカード手配料」等の呼称も存在。

※2 卸電気通信役務の提供については、電気通信事業法施行規則を改正し、SIMカードの種類、料金、提供条件等を届出事項として追加。(第二種電気通信設備を設置する電気通信事業者は、一定の規模以上(契約数50万回線以上等)の卸契約等について届出が必要。)

※3 当該費用の額はMNO各社ごとに異なり、今年度は1枚につき114円～335円。

(2) MVNO音声通話付きサービスに対する初期契約解除制度の適用開始

- 2015年の電気通信事業法改正により、利用者が電気通信サービスの特性に起因した契約上のトラブルを回避することができるよう、契約初期の一定期間は、利用者側から相手方(電気通信事業者)の同意無く、契約を解除することができる**初期契約解除制度が導入(2016年10月施行)**。初期契約解除時に事業者が利用者に対価請求できる費目及び上限額についても併せて規定(※4)。
- 制度導入当初、MVNOの音声通話付きサービスは、初期契約解除制度の対象外(※5)であったが、2018年にはMVNOの普及が進み、MVNOの音声通話付サービスについての苦情相談も少ないとはいえない状況となってきたことから、告示改正を行い、**2018年10月より、MVNOの音声通話付サービスを初期契約解除制度の対象役務として追加。**

※4 利用者が初期契約解除を申し出た際、事業者は違約金を請求できないほか、例えば契約時に初期費用等として受領した費用の中でも、対価請求を認められていない費目や、対価請求できる費目の上限額を超える部分の費用については、利用者に返金しなければならない。

※5 初期契約解除制度導入検討当時、MVNOの音声通話付きサービスに対する苦情相談事案がほとんどなかったため。

改正の背景②

(3) MVNO事業者からの制度改正要望

- **消費者保護ルール実施状況のモニタリング定期会合(第6回:2019年2月1日開催)**において、(一社)テレコムサービス協会より、「初期契約解除に際してMVNOが負担しているSIM準備手数料(仮)について、対価請求の項目として追加してほしい」との要望が示された。これを踏まえ、同会合において「**「SIM準備手数料(仮)」については、総務省等において、その実情を踏まえた上で、今後の取り扱いを検討していくことが必要**」であるとする**要改善・検討事項**が取りまとめられた。

(4) 総務省における検討

- 「SIMカード発行手数料」のうち、①MVNOが利用者への役務提供のために必ず要する費用であり、②接続料の一部として省令の基準に基づき算定され透明性・適正性が確保されているSIMカード貸与費用に相当するもの(※6)と認められる金額については、**SIMカードの提供に要する費用として初期契約解除に伴う対価請求の項目に追加することとし、所要の規定整備を行う。**

※6 卸電気通信役務の提供についても、接続約款と同様の料金等の条件で行われている。

(参考2) H29年9月における電気通信事業法施行規則等の改正について

- 2016年12月より、「電気通信市場分野における市場検証に関する年次計画(平成28年度)」に基づき、MNO及びMVNOに対し、接続制度の運用状況、卸電気通信役務の提供状況及びサービス提供に当たっての課題等について、ヒアリング調査を実施。
- 上記調査及び電気通信市場検証会議等の結果を踏まえ、第二種指定電気通信設備に係る接続料の透明性・適正性等の確保、公正競争環境の向上のため省令等を改正。

| 改正対象 | 改正事項 | 改正内容 |
|-------------|---|---|
| 電気通信事業法施行規則 | 接続約款記載事項の追加 | 次の事項を接続約款への記載事項に追加 ①標準的な役務利用管理システムの機能及び料金 ②SIMカードの種類ごとの機能 ③障害に関する情報の接続事業者への通知責任 ④いわゆる網改造料等の、案分方法を含む算定方法 |
| | 卸電気通信役務に関する届出事項の追加 | 役務利用管理システム及びSIMカードの種類、料金、提供条件等について届出事項に追加 |
| 接続料規則 | データ伝送交換機能の区分及び接続料の算定方法 | データ伝送交換機能に新たな区分及びそれぞれの単位を設ける ① ②③以外のもの(回線容量) ② 回線管理機能(回線数) ③ SIMカード(SIMカードの枚数) |
| 情報開示告示 | 円滑な接続を行う上で重要な事項の情報開示義務を追加 | |
| MVNOガイドライン | <ul style="list-style-type: none"> ● 頻度の高い工事の工事当たりの単価を約款に記載すべき旨明確化 ● 役務利用管理システム又はSIMカードの機能その他の提供条件の追加及び変更に関する情報を早期に通知するよう努めるよう記載 ● MVNEとして他のMVNOに電気通信役務の提供を行っているMVNOについて、MNOから得たふくそう、事故等に関する情報を速やかに卸先業者に情報提供するよう記載 | |

(参考3) 接続約款におけるMNO3社のSIMの貸与料金

2019年4月時点

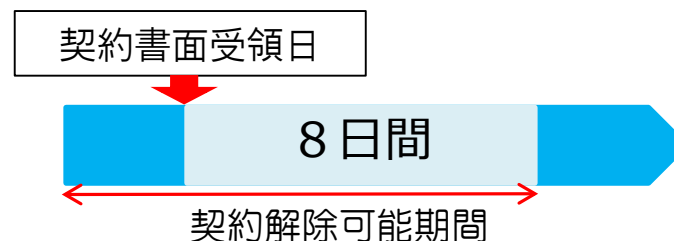
| MNO各社 | SIMの貸与に係る費用 | 接続約款における記載(各社の接続約款より抜粋) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-------------|--|------|--|----|------|----|-----------------|-------|---|------|--|------------------------------------|------|---|-------|------|---|
| NTTドコモ | 335円 | <p>(USIMカードの貸与に係る費用の支払い義務) 第56条の3 協定事業者(接続申込者を含みます。以下、この条において同じとします。)は、第25条の6(USIMカードの貸与に係る請求)第2項に規定する契約に基づき、USIMカードの貸与に係る請求を行い、当社がその請求を承諾したときは、料金表第3表(その他の費用)第1(USIMカードの貸与に係る費用)に規定するUSIMカードの貸与に係る費用の支払いを要します。</p> <p style="text-align: right;">1 USIMカードの貸与に係る費用の額</p> <table border="1" data-bbox="1369 321 2018 499"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>形状</th> <th>費用の額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>USIMカードの貸与に係る費用</td> <td>1枚ごとに</td> <td>Plug-in UICC、Mini-UICC、又は4FF</td> <td>335円</td> <td>FOMA直取ポケット接続機能又はXi直取ポケット接続機能での利用が可能です。</td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 単位 | 形状 | 費用の額 | 備考 | USIMカードの貸与に係る費用 | 1枚ごとに | Plug-in UICC、Mini-UICC、又は4FF | 335円 | FOMA直取ポケット接続機能又はXi直取ポケット接続機能での利用が可能です。 | | | | | | |
| 区分 | 単位 | 形状 | 費用の額 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | |
| USIMカードの貸与に係る費用 | 1枚ごとに | Plug-in UICC、Mini-UICC、又は4FF | 335円 | FOMA直取ポケット接続機能又はXi直取ポケット接続機能での利用が可能です。 | | | | | | | | | | | | | | |
| KDDI 沖縄セルラー | 114円又は226円 | <p>(auICカードの貸与に係る費用の支払義務) 第68条の3 協定事業者(接続申込者を含みます。以下、この条において同じとします。)は、第38条の3(auICカードの貸与に係る申込み)第2項に規定する契約に基づき、auICカードの貸与に係る請求を行い、当社がその請求を承諾したときは、料金表第4表(その他の費用)第1(auICカードの貸与に係る費用)に規定するauICカードの貸与に係る費用の支払いを要します。</p> <p style="text-align: right;">第4表 その他の費用 第1 auICカードの貸与に係る費用の額</p> <table border="1" data-bbox="1379 642 2028 1021"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>形状</th> <th>費用の額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">auICカードの貸与に係る費用</td> <td rowspan="3">1枚ごとに</td> <td>「Mini-UICC」、又は「4FF」</td> <td>226円</td> <td>WIN直取ポケット接続機能及びLTE直取ポケット接続機能での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。</td> </tr> <tr> <td>「Plug-in UICC」、「Mini-UICC」、又は「4FF」</td> <td>114円</td> <td>LTE直取ポケット接続機能での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。</td> </tr> <tr> <td>「4FF」</td> <td>114円</td> <td>LTE直取ポケット接続機能(LPWA)での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。</td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 単位 | 形状 | 費用の額 | 備考 | auICカードの貸与に係る費用 | 1枚ごとに | 「Mini-UICC」、又は「4FF」 | 226円 | WIN直取ポケット接続機能及びLTE直取ポケット接続機能での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。 | 「Plug-in UICC」、「Mini-UICC」、又は「4FF」 | 114円 | LTE直取ポケット接続機能での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。 | 「4FF」 | 114円 | LTE直取ポケット接続機能(LPWA)での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。 |
| 区分 | 単位 | 形状 | 費用の額 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | |
| auICカードの貸与に係る費用 | 1枚ごとに | 「Mini-UICC」、又は「4FF」 | 226円 | WIN直取ポケット接続機能及びLTE直取ポケット接続機能での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 「Plug-in UICC」、「Mini-UICC」、又は「4FF」 | 114円 | LTE直取ポケット接続機能での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 「4FF」 | 114円 | LTE直取ポケット接続機能(LPWA)での利用が可能です。発注枚数などの条件により変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| ソフトバンク | 292円 | <p>(3Gチップの利用に係る費用の支払義務) 第56条の3 協定事業者(接続申込者を含みます。以下、この条において同じとします。)は、第28条の2(開通システム等の利用申込み)第2項に規定する契約に基づき、3Gチップの利用の申込みを行い、当社がその申込みを承諾したときは、料金表第4表(その他の費用)第1(3Gチップの利用に係る費用)に規定する3Gチップの利用に係る費用の支払いを要します。</p> <p style="text-align: right;">第1 3Gチップの利用に係る費用 当社網(S)</p> <table border="1" data-bbox="1369 1178 2028 1313"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>形状</th> <th>料金額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3Gチップの利用に係る費用</td> <td>1枚ごとに</td> <td>Plug-in UICC(標準タイプ)、Mini-UICC(microタイプ)又は4FF(nanoタイプ)</td> <td>292円</td> <td>直取ポケット接続機能での利用が可能です。</td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 単位 | 形状 | 料金額 | 備考 | 3Gチップの利用に係る費用 | 1枚ごとに | Plug-in UICC(標準タイプ)、Mini-UICC(microタイプ)又は4FF(nanoタイプ) | 292円 | 直取ポケット接続機能での利用が可能です。 | | | | | | |
| 区分 | 単位 | 形状 | 料金額 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3Gチップの利用に係る費用 | 1枚ごとに | Plug-in UICC(標準タイプ)、Mini-UICC(microタイプ)又は4FF(nanoタイプ) | 292円 | 直取ポケット接続機能での利用が可能です。 | | | | | | | | | | | | | | |

- 利用者は、**契約書面受領後等から8日間**は、相手方（電気通信事業者）の合意なく**契約解除**できる。また、初期契約解除制度の規定に反する**特約は無効**とする。

● 対象役務

| | | | |
|------|--|----------------------------|------------|
| 移動通信 | ①MNOの 携帯電話端末サービス(音声サービスあり) | 「確認措置」の認定を受けた サービスは適用除外 | プリペイド型は対象外 |
| | ②MNOの無線インターネット専用サービス | | |
| | ③MVNOの無線インターネット専用サービス 期間拘束あり | | |
| | ④MVNOの 携帯電話端末サービス(音声サービスあり) | | |
| 固定通信 | ①光ファイバーインターネットサービス | | |
| | ②ケーブルテレビインターネットサービス | | |
| | ③上記①・②向けの分離型インターネット接続サービス | | |
| | ④DSL向けの分離型インターネット接続サービス(DSLの 回線部分の契約を解除しないで変更可能なもの) | | |

● 契約解除可能期間(原則)



● 契約解除時に利用者に請求できる上限額(現行)

- ①契約解除までのサービス提供の対価
※定額制の料金は、原則として日割り計算
- ②サービス提供に必要な**工事(実施済の工事)に通常要する費用**※1として総務大臣が告示※2する額
- ③**契約の締結のために通常要する費用**(いわゆる事務手数料)※1として総務大臣が告示※2する額
- ④**番号ポータビリティの適用に通常要する費用**※1として総務大臣が告示※2する額

※1 当該費用として通常請求されるもの

※2 詳細は次ページ

- 初期契約解除制度は、利用者に不利な料金等の変更が含まれる**変更契約・更新契約**にも適用

(参考5) 初期契約解除に伴う対価請求の上限額を定める告示の概要

- 初期契約解除に伴い利用者が支払うべき額(対価請求額)のうち工事費用、事務手数料及び番号ポータビリティに係る費用の上限額を規定。

| | | |
|----------------|--|--|
| 工事費用 | (FTTHアクセスサービス) <ul style="list-style-type: none"> 戸建て住宅に人員を派遣して行う工事 25,000円 集合住宅等に人員を派遣して行う工事 23,000円 その他の工事(人員派遣なし) <u>2,000円</u> ★土日・休日の場合は3,000円、 夜間・深夜の場合は10,200円を加算可能 (人員無派遣の場合は加算不可) | (CATVアクセスサービス) <ul style="list-style-type: none"> 戸建て住宅に人員を派遣して行う工事 18,000円 集合住宅等に人員を派遣して行う工事 17,000円 その他の工事(人員派遣なし) <u>2,000円</u> |
| 事務手数料 | 3,000円 (固定通信、移動通信共通) | |
| 番号ポータビリティに係る費用 | 3,000円 (固定通信、移動通信共通) | |

※上記の上限額に消費税を加えた額まで請求可能。

※上記の上限額以内であっても、通常の中途解約等で請求している額の方が低い場合は当該額が上限となる旨を告示に規定。

※上記のほか、施行規則に基づき、初期契約解除までに利用したサービスの利用料を合理的範囲内で請求可能。

※上記のうち、事務手数料について、その請求単位は契約単位が望ましいものの、顧客管理システム上の管理が回線ごとになっているなど特段の事情がある場合には回線単位とすることも考えられる。

- あくまで上限であり、全ての場合においてこの額まで請求できる権利が事業者には与えられるものではない。事業者が自主的に無償での契約解除に応じることも妨げられない。

○ 電気通信事業法(昭和五十九年法律第八十六号)

(第二種指定電気通信設備との接続)

第三十四条 (略)

- 2 前項の規定により指定された電気通信設備(以下「第二種指定電気通信設備」という。)を設置する電気通信事業者は、当該第二種指定電気通信設備と他の電気通信事業者の電気通信設備との接続に関し、当該第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者が取得すべき金額及び接続条件について接続約款を定め、総務省令で定めるところにより、その実施前に、総務大臣に届け出なければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。
- 3 総務大臣は、前項(第八項の規定により読み替えて適用する場合を含む。)の規定により届け出た接続約款が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、当該第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者に対し、相当の期限を定め、当該接続約款を変更すべきことを命ずることができる。
 - 一 次に掲げる事項が適正かつ明確に定められていないとき。
 - イ 他の電気通信事業者の電気通信設備を接続することが技術的及び経済的に可能な接続箇所のうち標準的なものとして総務省令で定める箇所における技術的条件
 - ロ 総務省令で定める機能ごとの第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者が取得すべき金額
 - ハ 第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者及びこれとその電気通信設備を接続する他の電気通信事業者の責任に関する事項
 - ニ 電気通信役務に関する料金を定める電気通信事業者の別
 - ホ イからニまでに掲げるもののほか、第二種指定電気通信設備との接続を円滑に行うために必要なものとして総務省令で定める事項
 - 二 第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者が取得すべき金額が能率的な経営の下における適正な原価に適正な利潤を加えたものを算定するものとして総務省令で定める方法により算定された金額を超えるものであるとき。
 - 三 接続条件が、第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者がその第二種指定電気通信設備に自己の電気通信設備を接続することとした場合の条件に比して不利なものであるとき。
 - 四 特定の電気通信事業者に対し不当な差別的な取扱いをするものであるとき。

4～9 (略)

(第一種指定電気通信設備又は第二種指定電気通信設備を用いる卸電気通信役務の提供)

- 第三十八条の二 第一種指定電気通信設備又は第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者は、当該第一種指定電気通信設備又は第二種指定電気通信設備を用いる卸電気通信役務の提供の業務を開始したときは、総務省令で定めるところにより、遅滞なく、その旨、総務省令で定める区分ごとの卸電気通信役務の種類その他総務省令で定める事項を総務大臣に届け出なければならない。届け出た事項を変更し、又は当該業務を廃止したときも、同様とする。

参照条文

○ 電気通信事業法施行規則(昭和六十年郵政省令第二十五号)

(第二種指定電気通信設備との接続に関する接続約款の届出)

第二十三条の九の三 法第三十四条第二項の規定により、接続約款を定め、又は変更しようとする者は、その実施の日の七日前までに、様式第十七の四の届出書に、次に掲げる事項を記載した接続約款(変更の届出の場合は、接続約款の新旧対照)並びに様式第十七の四の二から第十七の四の七まで及び総務大臣が別に告示する様式の接続料(第二種指定電気通信設備との接続に関し当該第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者が取得すべき金額をいう。以下この条において同じ。)の算出の根拠に関する説明を記載した書類その他必要な書類を添えて提出しなければならない。この場合において、当該書類に掲記される科目その他の事項の金額及び数値は、接続料の算出に十分な精度を確保できる場合に限り、端数処理を行つて表示することができる。

一～五 (略)

(法第三十八条の二の総務省令で定める事項)

第二十五条の七 法第三十八条の二の総務省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。

五 第二種指定電気通信設備を設置する電気通信事業者から当該第二種指定電気通信設備を用いる前号の表の上欄に掲げる卸電気通信役務の提供を受ける電気通信事業者が同表の下欄に掲げる電気通信事業者の場合にあつては、当該電気通信事業者ごとの次に掲げる事項

- イ 提供卸電気通信役務に係る役務利用管理システムの機能及び料金その他の提供条件
- ロ 提供卸電気通信役務に係るSIMカードの種類、機能及び料金その他の提供条件

○ 第二種指定電気通信設備接続料規則(平成二十八年総務省令第三十一号)

第4条 法第三十四条第三項第一号ロの総務省令で定める機能は、次の各号に掲げる機能の区分に応じ、当該各号に定めるものとする。

- 一 (略)
- 二 データ伝送交換機能 第二種指定電気通信設備にその電気通信設備を接続する他の電気通信事業者(以下「他事業者」という。)が設置する当該電気通信設備と第二種指定電気通信設備をGPRSTソネリングプロトコルが用いられる通信方式を用いて接続した上で、当該他事業者が設置する電気通信設備と特定移動端末設備との間で専ら符号又は映像の伝送交換を行う機能(無線設備規則(昭和二十五年電波監理委員会規則第十八号)第四十九条の六の四又は第四十九条の六の五で定める条件に適合する無線設備であつて、拡散符号速度が一の搬送波当たり毎秒一・二二八八メガチップのものを使用した符号又は映像の伝送交換を行うものを除く。)
- 三・四 (略)

2 前項第2号の機能は、接続料を算定するために次に掲げる部分に区分するものとする。

- 一・二 (略)
- 三 SIMカード(電気通信事業報告規則(昭和63年郵政省令第46号)第10条に規定するSIMカードをいう。以下同じ。)の提供に係るもの(事業者が現にSIMカードの提供を行っている場合に限る。)

(データ伝送交換機能の接続料)

第13条 第四条第一項第二号に掲げる機能の接続料は、次の各号に掲げる部分に応じ、当該各号に定めるものを単位として設定するものとする。

- 一 第四条第二項第一号 回線容量
- 二 第四条第二項第二号 回線数
- 三 第四条第二項第三号 SIMカードの枚数

2 第四条第二項第三号に掲げる部分に係る接続料の原価及び利潤は、次の各号に定める方法により算定することができる。この場合において、当該接続料の原価及び利潤には、第三章の規定は適用しない。

- 一 接続料の原価は、SIMカードの調達費用に、SIMカードの管理及び他事業者への提供に要する費用として合理的に算定したものを加えたものとする。
- 二 接続料の利潤は、次に掲げる式により計算した運転資本に、前項第一号の接続料の算定における利潤を当該算定に係るレートベースで除したものを乗じたものとする。

$$\text{運転資本} = \text{前号の調達費用} \times (\text{SIMカードの提供からこれに係る接続料の収納までの平均的な日数} / \text{三百六十五日})$$

3 (略)